



こども財団だより

CHILD FOUNDATION NEWS

- 第22号 -

こども財団の取組を紹介する季刊誌です

学生ボランティアが こども夢文庫 の魅力を 動画配信

学生ボランティアは、神戸学院大学や明石工業高等専門学校(明石工業高専)の学生、あかしフリースペース☆トロッコに通う子どもたち。学校等ごとのグループ単位で、こども夢文庫を訪問し、利用する保護者やスタッフにインタビューを行っている様子等を動画撮影し、動画の編集・演出のすべてを学生ボランティア自身が行いました。この動画は、財団ホームページ内にあるこども夢文庫のページで配信します。

こども財団ホームページ <https://akashi-kodomo-zaidan.jp/index.php> QRコードはこちら⇒



動画撮影時の様子



こども夢文庫あさぎ × 神戸学院大学

スタッフだけでなく、多くの利用者の方にも撮影にご協力いただきました。こども夢文庫あさぎの魅力が余すことなく伝えたいと思います!

二見北こども夢文庫 × 明石工業高等専門学校

二見北こども夢文庫の歴史や良いところをインタビューし、魅力をPRできるように撮影を行いました。運営者と相談しながら、動画を作っていきます!



こども夢文庫大久保北 × あかしフリースペース☆トロッコ

撮影、インタビュー、編集にチャレンジ!小さな子どもたちやスタッフの皆さんと交流を深めることができました。



こども応援地域活動団体 訪問記

みんな「あすなろ」

あかねが丘学園の卒業生が、無農薬野菜を栽培し、近隣の保育園や児童養護施設の子どもたちと一緒に野菜を収穫するなど、土や自然との触れ合いを通して、食の大切さや環境学習を行っています。

この日は、近隣の保育園の子どもたちがさつまいもの収穫に来て、笑顔いっぱい芋ほりを楽しんでいました。



花いちもんめ

地域の幼稚園にて、絵本や紙芝居の読み聞かせをしながら、子どもたちと交流しています。



この日は、手作りの人形や小道具などを使った寸劇を披露した後、クリスマスの歌を子どもたちと一緒に歌いました。子どもたちも人形の動きに興味深々で、楽しそうに過ごしていました♪



こども食堂レポート

今回は、貴崎小学校区の「きさきっこかふえ」に行ってきました。

貴崎小学校区に、新たなこども食堂「きさきっこかふえ」が誕生しました。地域の交流拠点「貴崎みんなのひろば “よついで”」で開催され、民生児童委員を中心とする地域ボランティアの方々で運営しています。事前申込不要で、子どもたちはふらっと立ち寄ることができ、工作やボードゲームで遊んだり、軽食を食べたりしながら過ごします。世代を問わずみんなで交流できる居場所になっています。

地域のゆるやかなつながりを育む居場所に是非ご参加ください♪



次はどこのお食堂に行こうかな・・・次回もお楽しみに♪

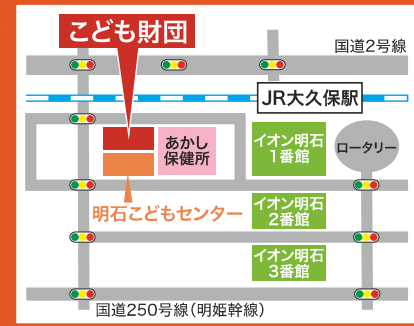
こども食堂へのたくさんのご支援ありがとうございます

ご提供者	提供先	提供品
明治安田生命保険 相互会社 明石中央営業所様	こども食堂	タオル
株式会社創味様	こども食堂	煮豆「うずら豆」・ 「白花生」
個人様(2名)	こども食堂	みかん・じゃがいも
明石地域振興開発 株式会社様	こども食堂	食器用洗剤等

西日本こども研修センターあかし

研修センターでは、1月17日～19日の3日間、児童養護施設の職員向けの研修を実施しました。さて、皆さんは「児童養護施設」についてご存じでしょうか。児童養護施設は全国に612カ所あり、約25,000人の子どもたちが生活しています。実は、明石市内にも児童養護施設が1カ所あります。児童養護施設は、保護者のいない児童や保護者に監護させることが適当でない児童に対し、安定した生活環境を整えるとともに、生活指導、学習指導、家庭環境の調整等を行いつつ養育を行い、児童の心身の健やかな成長とその自立を支援する機能をもちます。また、できる限り家庭的な環境で、安定した人間関係の下で育てることができるよう、施設のケア単位の小規模化やグループホーム化等を推進しています。しかし、その実態はあまり知られていないのが現状です。まずは、「知る」こと。そして、社会全体で子どもを育てるように、市民一人ひとりが、できることを考えることが大切なかもしれません。研修センターとしても、児童養護施設で働く職員の専門性を高める研修を提供、エンパワメントを通して、間接的に子どもや家庭を支えています。

研修企画員 芦田 拓司
児童養護施設について、詳しくはこちらをご覧ください。⇒



こども夢文庫

研修会・交流会

開催日時：2023年11月18日土曜日
14時～16時30分
開催場所：西日本こども研修センターあかし
大研修室

こども夢文庫が活動の持続可能性を高めていくためのヒント等を知る研修会と、こども夢文庫運営者同士の交流や情報交換を行う交流会を開催しました。

研修会

講師：宮内 輝氏
株式会社 空島 代表取締役

地域活動の縦・横のつながりづくりのための SNS等の活用



- 地域活動の広げ方：体験・口コミ・動画の活用
- 動画の必要性：① 活動内容はそのままOK
② 活動をより多くの人に知ってもらう
- 縦のつながり・横のつながり：「運営団体⇄親⇄子ども」の縦のつながり、「運営団体同士」の横のつながりが大事



交流会

フリートーク「こども夢文庫の活動について」

「無理はしない」「自分の気持ちを素直に伝える」「楽しむ気持ちを持つ」「この場の話はここだけの話」をルールとして、小グループに分かれて、こども夢文庫の活動について自由に話し合いました。

最後に発表していただき、共通の課題やそれぞれのこども夢文庫での創意工夫等を全体で共有しました。



和やかな雰囲気の中、いろいろな話題で盛り上がりました。

子育ての相談がしやすく、絵本・おもちゃもある居場所であることを知ってほしいです。



他の取組も参考にできるので、こども夢文庫で研修会を開催できたらいいと思いました。



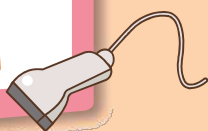
誰でも行きやすく、行ってみたいと思えるような動画を作りたいと思いました。



参加者の

声

バーコードで本の貸し出しの管理をする等、それぞれのこども夢文庫でその先進的な取組を知ることができて有意義な時間でした。



共通した課題として、3歳児保育開始以降、参加者が低年齢化している。赤ちゃんへの対応やイベントの開催内容の検討等も必要と思いました。



こども食堂

研修会

開催日時：2023年12月2日土曜日
10時～12時20分
開催場所：西日本こども研修センターあかし
大研修室

子どもたちの声を軸とした子どもたち主体の居場所となるよう、こども食堂に関わる大人が、今まで以上に子どもの声を聴き、子どもたちを支えていくうえで必要な知識等を習得するため、こども食堂運営団体を対象に研修会を開催しました。

研修会

講師：吉田 祐一郎氏
四天王寺大学 教育学部教育学科 准教授

こども食堂の役割と これからの方向性について



- こども食堂の位置づけ：子ども個人への支援と地域課題への対応をつなぐ役割を「こども食堂」が担っている。
- 多様化・多機能化するこども食堂：内容・体制・実施方法等、こども食堂の形態は多様化し、食を提供する居場所としての機能に加えて、発見・見守り、ケア・サポート、まちづくり等多岐にわたる機能を有している。
- 居場所としてのこども食堂：こども食堂としての「居場所」とは、「生きる（成長）」「生きる（自分らしく）」を大人と子どもと一緒に叶えていく場所である。
- こども食堂のこれからの方向性：活動の継続には、
① こども食堂として活動する意味、
② 将来性を踏まえた展開を意識して活動することが必要である。



グループワーク

「これからのこども食堂」について話し合う

- (1) わたしにとってのこども食堂とは
 - (2) 子どもたちからみたこども食堂とは
 - (3) 子育て家庭からみたこども食堂とは
 - (4) 地域にとってのこども食堂とは
- の4つのテーマについて、グループ内で話し合っていました。



それぞれのグループで活発な意見交換がなされました。

子どもをお客さんではなく、子どもが主体的にできるような取組やメニューを考えたいと思いました。



自分たちのこども食堂が抱える課題が明確になりました。



楽しんでこども食堂に関わっている方が多いように思いました。私もこれから楽しい時間を子どもたちと過ごそうと思います。



連携機関等のヒントをたくさんいただきました。スタッフと学んだことを共有していきます。



参加者の

声

スタッフと共有しながら、今後の子どもたちにどう活かしていけるか考えます。

